

# Our Life 124号

＊  
内  
容  
＊

- 昨年度事業を継承 令和元年度「子どもを育む地域づくり検証事業」展開中 ..... p.1
- 第2回公開型研修会で「子ども支援」を議論～地域に人あり～ ..... p.2
- 第30回学会大会全国大会東海大会&第1回中部東海ブロック大会 ..... p.3  
実行委員会・事務局会議を積み重ね、11月30日当日に向けて展開中
- 第18回静岡県福祉文化研究セミナー開催案内 ..... p.4

## 昨年度事業を継承 令和元年度活動テーマは 「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と 地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」に取り組む

本会では、昨年度「子ども」をキーワードに、「調査研究活動」「啓発学習活動」「実践活動」の3つの柱立による活動に取り組んできた。引き続き、今年度の活動テーマを「子どもを育む福祉コミュニティの再構築と地域ぐるみのささえあいの仕組みづくり」として、すでに活動を展開し5カ月が経過した。「あしたの日本を創る協会」から、「子どもを取り巻く地域課題」を「生活会議」としてさらに議論を深めるとともに、本会の23年間の福祉文化実践活動のプロセスから、地域性を踏まえた「子どもの健やかな環境づくり」について県内の子ども支援活動の地域を検証、課題提起をする「全国的な課題活動」としての助成をいただいた。

また、「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金・地域福祉・ボランティア事業活動等推進事業」として、「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査報告書」の作成と考察提言を効果的に取り組むこと、この調査報告書等をもとに、期間中に3回の「公開型研修会」を開催して、広く県民に啓発活動に努めること、「子ども食堂」や「子どもの居場所」「学習支援」等県内の子ども支援に取り組む県内実践活動者を中心に「共創社会研究会」を設置（期間中3回開催 委嘱委員6名と本会会員7名で構成）し、研究会の位置づけと方向性、地域の現状、調査結果からの課題討議、実践地区検証、公開型研修会結果考察、事業全般考察等を基に、各委員から見た子どもの取り巻く環境（孤立・孤食・欠食等）について広く意見をまとめることや、幅広い広報媒体（特に、本会の機関紙「Our Life」の有効活用）を通じて今日的な社会課題の改善に努める活動等に対して助成をいただくこととなった。今後、さらに、コミュニティ組織との連携を深め、「子どもを育む地域」について、住民主体の啓発学習の取り組みの充実や、子どもの居場所の取り組みの検証等に積極的に取り組むことしたい。

昨年度から取り組んできた「子どもに関する調査研究事業」は、ここ3年間では、回収率が一番高く、県民の「子ども」に対する関心が高いことを確認した。

2年間をかけて取り組んできた「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査報告書」の完成を基に、さらには、2019年度「100名の子どもたちに聞きました。ホッとさせる地域ですか」と題して、「子ども」（小学校高学年）100名に対して、「生活意識」「家族・家庭」「地域」項目から、大人社会が今後どのように地域環境の改善に取り組まなければならないかについて提言できるように取り組みたい。すでに、この調査は、県内の東部、中部、西部の関係方面に発送作業をしている。夏休みを中心に取り組んでいただくことを期待している。



## 第2回公開型研修会で「子ども支援」を議論～地域に人あり～

“身近な生活圏域で福祉課題解決に向けた「生活会議」を創る”を  
もとに、2019年度、24年目の活動に入った本会は、5月18日(土)  
静岡市清水区迫分「寄ってっ亭」において、第1回公開型研修会(15  
名参加)を開催。そして、このたび「子ども支援」をテーマに8月  
3日に、「第2回公開型研修会」を開催した。

本会の活動基調である「専門性と市民性を融合した活動」「広く  
地域課題を共有した地域総合型活動」「新たな地域課題解決に向け  
た活動」をもちに、参加者15名が「円卓トーク」で、和やかな学習  
環境の中で、大いに語りあった。まず、基調報告①「23年間の静岡  
発福祉文化実践のプロセスを再確認するー第1回公開型研修会の  
議論を検証ー」では、これまでの23年間の活動を振り返りながら、  
本会の誕生の経緯と3つの活動基調をもとに、原点とプロセスを確  
認し合う中で、「地方発福祉文化」を検証した。(右図参照)

さらに、外部講師を招くことなく、市民・参加者主体の「調査研  
究活動」「地域総合型学習活動」「地域実践活動」の3つの柱立ての  
本会活動の意義を確認しあった。

世代を超えた身近な生活圏域の課題解決に向けた議論(「生活会  
議」)をする本会の「公開型研修会」は、住民主体の地域づくりの基  
本の取り組みとして、地域社会の中で、常に「語れる環境」を創る  
ことから問題解決の第一歩が始まることを実証し合った。

第1回公開型研修会(5月18日開催)のワークショップにおいて「子ども  
の主体性・自主性」をいかに引き出すかを議論した「成果物」から、「家  
族・家庭の果たす役割」「地域社会が担う役割」を振り返り確認した。  
基調報告②「地域の実践活動の現状」では、参加者のそれぞれの地域に  
おける子どもを取り巻く環境を紹介し合った。特に、参加者の中で、  
長年にわたり、子ども支援活動に取り組まれている実践事例を紹介し  
ていただきながら、これまで存在していた、あつたはずの「地域力」が  
見えなくなっていることや、大人社会が個人志向傾向になりつつある  
こと、家庭・家族機能の希薄化・弱体化を浮き彫りになった。ワーク  
ショップ(円卓トーク)では、各グループにわかれて、第1回(5月18日)  
の「パート2」として、「地域の子どもの地域で育むー子ども支援方策ー」  
と題して、下記の2つの課題について、「子ども支援→大人社会の役割」  
「地域に熱い思いをもつ人がいる社会づくり」を中心に語り合った。

課 題	現 状
A. 集団性 社会性	子どもの遊び/忍耐力の欠如/ひきこもり 集団離れ/道具がつかえない/上下関係の見分 けがつかない/自然環境の体験の欠如/注意さ れる機会が少ない/他人との関り少ない/時 間に左右される(ゆとりがない)/マナーの欠 如/手伝いの機会
B. 家庭・社会環境 心身共に健康 体力 生活習慣	世代間交流の希薄/過保護・安全性優先/核家 族ネット社会化/少子化 笑顔がない/精神面に弱い/アレルギー-体質 持続性欠如/食生活不自然/しつけ

### 静岡福祉文化を考える会結成経過

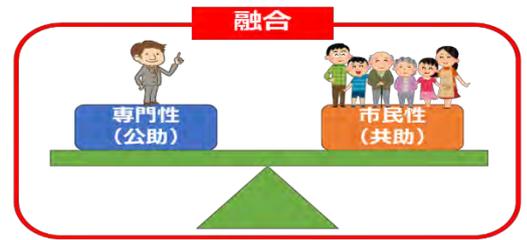
- > 1989年 「日本福祉文化学会」設立
- > 1995年 阪神淡路大震災
- > 1996年 「第11回学会現場セミナー」
- > 1996年9月 「静岡福祉文化を考える会」結成

スローガン：「地方発福祉文化の創造」

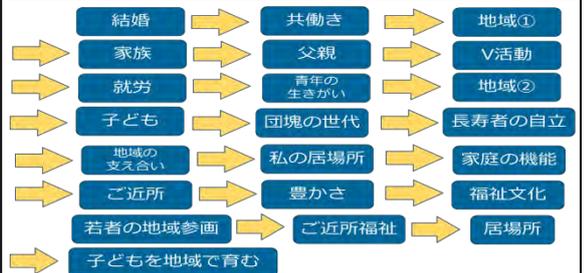
“人間らしい豊かさをめざして、  
今、文化としての福祉を語る”

### 活動基調 その1～専門性と市民性の融合～

さまざまな分野で活動する人たちが、専門性と世代  
を超えて交流する。



### 23年間の福祉文化実践活動の検証





## 第30回学会大会全国大会東海大会&第1回中部東海ブロック大会 実行委員会・事務局会議を積み重ね、11月30日当日に向けて展開中

中部東海ブロック（愛知県・静岡県・三重県・岐阜県・長野県）において、17年ぶりに「第30回日本福祉文化学会全国大会東海大会&第1回中部東海ブロック大会」がいよいよ、あと3ヵ月後の、11月30日（土）・12月1日（日）に愛知県名古屋市の中京大学名古屋キャンパスで開催される。

2月19日に準備委員会を立ち上げた後、3月、4月、6月に実行委員会を精力的に開催。すでに、学会会員をはじめ、関係方面に開催要項を発送し参加者募集に入った。

本会会員をはじめ、静岡県内35の市町社会福祉協議会、関係福祉施設、地域活動実践者等にご案内とともに参加の呼び掛けをすでに終えている。

「平成時代の幕引きとともに、新元号“令和”の下、住民主体の地域社会再構築の必要性から、新しい福祉文化の風を吹き込む意味で、「福祉文化元年」と位置づけ、とりわけ、これから求められる人材養成のあり方や音楽、アクティビティなど、多世代の豊かな暮らしを創造するアートを考える機会としている。

記念すべき第30回全国大会・東海大会は、過去の振り返りに留まらず、これからの見据える未来志向型大会となっている。近隣地域との連携をもとに開催し、「名古屋発の福祉文化の創造」が花開き、福祉文化活動により、地域社会全体が活性化することを大いに期待している。」と開催要項で呼びかけている。

静岡福祉文化を考える会は、日本福祉文化学会からの要請により取り組んだ「現場セミナー」（平成8（1996）年浜松市・浜松こども園・プレスタワー）がご縁で誕生し、その後「掛川市・ねむの木学園現場セミナー」「第13回日本福祉文化学会静岡大会」を開催し今日に至っている。今一度、「静岡発福祉文化の創造」にむかって今回の大会で原点を学び合っていきたい。会員をはじめ多くの県民の参加を期待したい。

【1日目】11月30日（土） 【会場】中京大学名古屋キャンパス 0号館（センタービル）6階

	11:30	13:00	13:40	15:00	16:10	16:30	18:00	20:00
受付	開会セレニー		記念講演 (湯浅景元氏)	シンポジウム	休憩	交流分科会 (企画①～⑤)		懇親会
	ロビー企画展							

【2日目】12月01日（日） 【会場】中京大学名古屋キャンパス 0号館（センタービル）6階

	8:30	9:00	9:50	10:20	11:50	12:50	14:00	14:30	16:30
受付	学会 総会	移動・ 休憩	研究発表 ワークショップ	昼食休憩 ランチャット お弁当販売	市民公開講 座（宗次徳 二氏）	閉会 セレニー 福祉文化実践賞 授賞式		現場セミナー (1～5 J-入)	
	ロビー企画展								

\* 現場セミナーが終了後、各セミナーごとに終了・解散。

\* 大会内容等の問い合わせについては、平田（電話・Fax: 054-624-1924）まで。

## 事務局日誌拝見（06/23～08/30）

- 06/23 ▶ マスコミ 15 社に、「第 2 回公開型研修会」告知と当日の取材を依頼する
- 06/24 ▶ 県内関係団体・実践活動者等 130 件に 8 月 3 日開催「第 2 回公開型研修会」チラシ送付
- 06/28 ▶ 県社協ふれあい基金助成事業内定（助成額 26 万円）通知有
- 06/28 - 08/30 ▶ 2018 年度実施した「子どもを地域で育む地域づくりその意識と実態調査報告書」考察
- 06/29 ▶ 「共創社会実現研究会」設置について検討始める（設置要綱・委員検討）
- 06/30 ▶ 会員へ「2019 年度全体会（第 1 回公開型研修会）関連資料」「学会大会関連情報」送付  
▶ 県社協に出向き、助成事業に関する書類についてレクチャー受ける
- 07/01 - 08/25 ▶ 「Our Life 124 号」企画書作成及び編集作業開始
- 07/03 ▶ 県社協ふれあい基金助成事業正式に「申請書類」を県社協に届ける  
▶ 会計に関する事務局打ち合わせ実施
- 07/05 ▶ 考える会活動計画修正作業実施（共創社会実現研究会設置加える）
- 07/08 - 07/29 ▶ 「第 2 回公開型研修会」「第 199 回委員会」レジメ作成作業に入る
- 07/13 ▶ 焼津福祉文化共創研究会第 4 回定例会開催
- 07/20 ▶ 日本福祉文化学会理事会出席（@大阪市）
- 07/23 ▶ マスコミ 15 社に再度「第 2 回公開型研修会」告知と当日の取材を依頼する  
▶ 関係方面に更に「第 2 回公開型研修会」参加呼び掛け
- 08/03 ▶ 「第 199 回委員会」「第 2 回公開型研修会」開催（@静岡市清水区）
- 08/10 ▶ 焼津福祉文化共創研究会第 5 回定例会開催
- 08/17 ▶ 第 30 回日本福祉文化学会全国大会東海大会第 3 回事務局会議開催
- 08/30 ▶ 「Our Life 124 号」発行配布作業

### 是非、ご参加下さい。参加費無料 第 18 回静岡県福祉文化研究セミナーのご案内

静岡県裾野市で、「第 13 回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」開催を契機に、「静岡発 福祉文化の創造」に取り組もうと「セミナー」誕生。18 年目を迎えた「福祉文化研究セミナー」に、ぜひ参加を！

- 日 時：2019 年 11 月 16 日（土）13:30～16:30
- 会 場：静岡市清水区追分「寄ってっ亭」 ◇ 定員 20 名
- テーマ：『福祉文化と子ども』
  - ① 基調報告 その 1「福祉文化研究セミナー18 年を探る」
  - ② 基調報告 その 2「子どもを取り巻く地域環境 その意識と実態」を探る
  - ③ ワークショップ「昔のこども、今の子どもからの学び 大人の言い分・子どもの言い分」

### ●福祉文化実践活動をご一緒にしませんか??

「静岡福祉文化を考える会」は、阪神淡路大震災(1995)翌年度の平成 8 年 9 月 1 日に発足し、令和元年度に 24 年の節目を迎えました。本会の活動基調は、「専門性と市民性の融合」「地域総合学習の企画と実践」「課題解決に向けたプロセス重視」のもと、「公開型研修会開催」「調査研究活動」「現場実践研修活動」を展開しています。さまざまな分野で活動している会員が、身近に感じている地域社会全般の課題解決に向けて市民の視点で活動をしています。

「静岡発 福祉文化の創造」に向けて、さらに活動を定着化してまいります。

- ◇ 会費：社会人 3,000 円 大学生以下 1,000 円
- ◇ 問い合わせ：〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17  
Tel.: 054-367-2878 Fax.: 054-367-2884

### 編 集 後 記

令和元年を迎え、早や 3 カ月が過ぎた。本会の活動も、24 年目に入り、何か活動を形にして行かなければならない。このたび、「あしたの日本を創る協会」からは、子どもの地域の現状を検証することへの助成をいただいた。また 23 年間継続して取り組んできた「調査研究活動」と「共創社会実現研究会」の取り組みと提言（考察）について「静岡県社会福祉協議会ふれあい基金から助成をいただいた。本会の「活動基調」に基づき、新たな福祉課題を共有すること、公開型・地域総合型研修の場をつくること、専門性と市民性を融合した取り組みに全力投球の時期がきた。